

平成26年度 村上市外国語活動部 活動報告

部長 宮下 絹恵

1 研究主題

コミュニケーションへの積極性を高める授業

2 研究の概要

コミュニケーションを積極的に行うことは、外国語活動が目指す最も重要なことの一つである。そこで、次の点を重視して、2回の研修会を行った。

- (1) 英語理解を深め、コミュニケーションを楽しむ授業づくりのためのactivityやchantの工夫を学ぶ。
- (2) 授業研修を通して、入門期の児童がコミュニケーションを積極的に行う指導方法を検討する。

3 研究の実際

- 8月 英語講習 <講師 川崎パトリシア 様(nativeでありながら日本語も堪能)>
部員7名と会場校の関川小学校の教職員13名が参加

- ・画用紙の色を変えて示すことで、自然に英語の文型に気付く「chant」〈画像①〉
- ・オリジナルABCchantダンスを作って発表会〈画像②〉
- ・桃太郎英語劇にぐるぐるポイントゲームを組み合わせた「activity」〈画像③〉

講師の川崎パトリシアさんは日本語も堪能で、楽しく分かりやすく教える方法を学ぶことができた。2学期からの外国語活動に早速取り入れられる有意義な研修であった。



〈画像①〉



〈画像②〉



〈画像③〉



- 10月 授業研究会 <授業者 朝日みどり小学校 竹内 君子 教諭>



児童の
振り返り
カード



部員5名と会場校の朝日みどり小学校の教職員3名が参加

1年生担任の竹内教諭による授業を公開した。その後、協議会を行い、研修を深めた。指導の実際を学び合うよい機会となった。入学後半年の間に、よく英語を覚えていた児童の姿に多くを学んだ。

協議会での意見の概要

10分程度の4つの活動がテンポ良く取り入れられ、児童は、意欲満々で取り組んでいた。活動が、次々に変化していくことは、入門期の児童に、もっとやりたいという強い関心を引き起こした。児童が分からない「fly」等は、身振り手振りも取り入れ、児童に話し合わせたり予想させたりしながら進めていた。絵本の活用は、非常に有効だった。

4 成果と課題

外国語活動の授業に取り入れるactivityやchantの工夫を学んだ。このような講習の場を、さらに充実させることで、積極的にコミュニケーションを楽しむ授業を進めていく手助けとなると考える。

授業研究後の協議会は、情報交換を通して、よりよい授業構想を考える有意義な研修の場であった。しかし、このような時間を生み出すゆとりがないのが実情である。意図的に機会を設定して、より外国語活動の研修を進めることが必要であると感じた。また、小中連携を視野に入れた活動を心掛けることも忘れてはならない。